



JAPAN HERITAGE
日本遺産

行田足袋



アクセス〔電車・バス〕

- JR上越新幹線・高崎線「熊谷駅」で秩父鉄道に乗り換え「行田市駅」下車
- JR高崎線「行田市駅」下車→市内循環バス利用
- JR高崎線「吹上駅」下車→朝日バス利用

観光レンタサイクル貸出場所

忍城バスターミナル観光案内所／JR行田市駅前観光案内所／
観光物産館ぶらっと♪ぎょうだ／行田市はにわの館

足袋業者

株式会社イサミコーポレーション
ガクヤ株式会社
きねや足袋株式会社
後藤足袋有限会社
創作足袋千代の松
株式会社武蔵野ユニフォーム

日本遺産



JAPAN HERITAGE
日本遺産

行田市では「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」のストーリーが平成29年4月28日に県内初の「日本遺産」に認定されました。土蔵、石倉、モルタル蔵など多彩な足袋の倉庫「足袋蔵」を見ることができます。

発行元：行田足袋組合

問い合わせ先：行田足袋組合事務局（行田市役所環境経済部商工観光課）
行田市本丸2-20

TEL.048-556-1111



【関連情報】

足袋とくらしの博物館



「足袋とくらしの博物館」はかつて牧野本店という足袋屋の足袋工場でした。平成17年（2005年）工場の面影をほぼそのままに残した博物館として生まれ変わりました。展示物や足袋職人による実演を見学できるほか、足袋の販売、My足袋作り体験も開催しています。

□住 所／行田市行田1-2 □時 間／10:00～15:00（土日のみ）
□開館日／土・日曜日（夏季休暇あり、冬季は12月半ば～1月上旬まで休館）
□料 金／200円（小学生は100円）

ヴェールカフェ（旧忍町信用組合店舗）



大正11年（1922年）建設の木造洋風銀行店舗。足袋商店主たちが出資して創業した地元金融機関の創業時の店舗で、足袋産業の発展を支えました。現在は移築され、カフェとして活用されています。

□住 所／行田市水城公園2305
□時 間／昼間10:00～17:00（ラストオーダー 16:20）※通常営業
夜間18:00～21:00 ※完全予約制
□定休日／火曜日※祝日の場合は営業（12月29日～1月3日は休館）

観光物産館 ぶらっと♪ぎょうだ

行田足袋や南河原スリッパをはじめ、十万石まんじゅう、奈良漬、わたばく牛乳などの本市の多様な名産品を取り揃えています。また、好きな行田足袋と雪駄を選び、実際に足袋蔵のまちを歩くことで気軽に和装文化を体験できる「行田足袋歩き体験」ができます。



□住 所／行田市忍2-1-8（行田市商工センター1階）
□時 間／9:30～17:00 □定休日／なし

・ 紐足袋 ・

足袋の原型は、紐で足首を固定する形状でした。江戸時代後期から明治時代かけて、一般的な形状として知られる、金具で留めるコハゼ足袋へと移行していきます。



紐足袋



白足袋

・ 柄足袋(創作足袋) ・

現代には、白足袋や黒足袋、紺足袋といった無地の足袋に加え、和装だけでなく、普段着にも合わせられるカラフルなデザインの柄足袋(創作足袋)も誕生しました。



柄足袋



半足袋



ランニング足袋

行田足袋の歴史

行田足袋は、埼玉県行田市で生産される特産品です。利根川、荒川の2大河川に挟まれた行田市周辺地域は、水や堆積した砂質土が豊富な場所で、夏季は高温になることから綿布の生産が盛んとなり、近くに中山道が通っていたことなどもあって、足袋の名産地となりました。

「貞享年間亀屋某なる者専門に営業を創めたのに起こり」との伝承があり、享保年間(1716~1735年)頃の「行田町絵図」に3軒の足袋屋が記されていることから、18世紀前半には生産が始まっていたと考えられます。



天保年間(1830~1844年)になると、足袋屋は27軒に増加しました。



近代に入ると足袋の需要が拡大し、行田足袋は東北地方や北海道へも販路を広げていきます。足袋づくりには作業工程ごとに専用の特殊ミシンが導入され、日露戦争によって生じた好景気を契機に足袋工場建設ブームが起こりました。



そして、昭和初期には最盛期を迎え、市内に200社以上の足袋商店が共存する全国一の足袋の生産地となりました。

靴下が普及した現在も、行田では足袋の生産が続けられており、足袋と言えば行田」と多くの方に親しまれ、令和元年には「行田足袋」として経済産業大臣指定「伝統的工芸品」に指定されました。

作業工程



1 ひきのし
布を重ねて整える。



2 裁断
裁断機で金型を用いて裁断。



3 掛け通し
コハゼをつける為の糸を通す。



4 押さえ
通した位置が動かないようにする。



9 尻止め
かかと部分を丸く縫い留める。



8 甲縫い
甲部分を縫い合わせる。



7 羽縫い
表と裏の布を縫い合わせる。



6 コハゼつけ
コハゼをつける。



5 ハギマチ
コハゼをつける部分の裏に当布を縫いつける。



10 爪縫い
つま先部分を縫う。



11 廻し
つま先部分以外を縫う。



12 千鳥
廻し縫いした周りを千鳥掛けする。



13 仕上げ
形を整えアイロンをかける。

